「東京湾インフラ見学クルーズ」を実施

実施日：平成30年 8 月25日㈯

一般の方々を対象に土木に関する施設や技術の重要性を感じていただくため、解説者として建築家・都市環境プランナーである阿部彰氏を迎え、様々なインフラ整備が進められている東京湾を船でまわる見学会を実施した。

東京ベイエリアの今を観る

当会は 8 月25日㈯に東京湾インフラ見学クルーズを開催した。東京湾、東京ベイエリアを支えるインフラや現在整備が進む施設を建築家・都市環境プランナーである阿部彰氏の解説とともに見てまわる 2 時間のクルーズである。当日は台風一過で夏の日差しがまぶしく天気に恵まれ、小さいお子さんから大学生、ご年配の方まで老若男女問わず合計70名の方が参加した。

阿部氏による東京湾の埋め立ての歴史について説明を受けながら、天王洲ヤマツピアを出航した船が最初に通過したのは、台場エリア。誰もが見覚えあるレインボーブリッジが見えてきたが、桁下をくぐり抜け構造を間近で見ることはそうそうできない体験で、参加者の方々も食い入るように見ており、興味津々な様子がうかがえた。

台場エリアを抜けるとタワーマンション群が見えてきて豊洲エリアへ。複数台のタワークレーンが立ち並ぶ選手村の工事を遠くに望んでいると、目の前に豊洲市場が飛び込んできた。広大な敷地の必要性、高速道路や幹線道路にアクセスしやすい良好な立地、築地市場の商圏との継続性等の条件をクリアし移転先に選ばれ、新たな東京の台所として開場整備を進めている。

次に船がやってきたのは東雲（しのめ）運河。川幅がぐっと細くなった運河に架かる橋をいくつか抜けて進んでいくと、右岸の植栽の間から建設中の有明体操競技場が突然、姿を現した。屋根の一部や特徴的な三角の柱を見ることができ、来年度の竣工に向け進捗は順調だ。

解説者　阿部 彰 氏

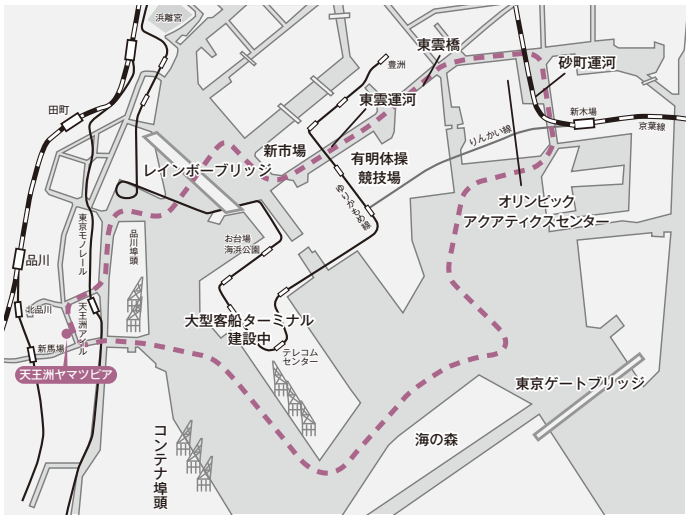
恐竜橋の愛称で親しまれている東京ゲートブリッジ。歩道は日中、無料開放されており自由に歩いて渡ることができる
※閉鎖日は、原則として毎月の第３火曜日及び12月の第１火曜日

左／頭すれすれの桁下の東雲橋。参加者もその近さに思わず息を飲む
中／今年の10月11日に開場予定の豊洲市場　　右／オリンピックアクアティクスセンター

しばらくそのまま進むと、東雲橋に近づいてきた。今までの橋よりも桁下高が低く、「手を伸ばしたら触れるくらいの高さの橋ですが、鉄でできているので触るのは危険ですよ」と構造や運河の説明をする阿部氏。その後、砂町運河に差しかかったところで水上の高架を走るJR京葉線と並走。線路の奥には、リフトアップ工法により7,000tの屋根をワイヤで吊り上げて施工するオリンピックアクアティクスセンターが見えた。その大きく特徴的な屋根は遠くからもしっかり見ることができた。水門やいくつかの橋をくぐり砂町運河を抜けると、視界が広がり多くのクレーン船が作業をしている様子がうかがえた。東京ベイエリアでの開発が活発なため、全国からクレーン船を集めて工事を行っているのだと阿部氏は説明してくれた。

その先には、東京ゲートブリッジや離発着する飛行機の姿も。桟橋と埋立を組み合わせたハイブリッド工法を日本で初めて採用した羽田空港D滑走路が完成したことで発着数も増加、今では１時間あたり約80回という数字を誇る。残念ながらD滑走路を見ることはできなかったが、飛び交う飛行機の姿を通して参加者の方々にもインフラ整備の重要性を強く実感していただけたことだろう。

そして最後の見所であるコンテナ埠頭エリアへ。両岸にずらっと並ぶガントリークレーンの姿は圧巻であった。ガントリークレーン群の横では、レインボーブリッジの桁下を通過できない大型船を受け入れるための客船ターミナルの建設工事が着々と行われていた。東京湾をぐるっとまわり天王洲ヤマツピアに戻ってきて見学クルーズは無事終了。



当日の巡航ルート

参加者からは「遊覧気分で乗るのとは違って、地図を見ながら説明を聞くクルーズで大変ためになりました」「東京港の開発の活発さ、インフラの壮大さが感じられました。機会があればまた参加したいです」とインフラの役割や重要性、建設業の意義を認識してもらえた見学クルーズとなった。